

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572100636		
法人名	医療法人社団慶城会 神舞の里		
事業所名	グループホーム仰星台門川		
所在地	宮崎県東臼杵郡門川町大字川内字新堂2671-2		
自己評価作成日	平成26年11月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhouyou_detail_2014_022_kanistrue&jigyosyoCd=4572100636-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地から離れた山間にあり、清閑で自然豊かな場所にあります。ホームの理念である『利用者様の気持ち、同じ目線になって心の通う介護を目指します』をもとに、職員一同が理念を共有し、個々を尊重したケアに取り組んでいます。また、個々の能力に応じて、利用者様に出来ることをお願いしています。母体が医療法人のため、支援体制も充実しております。環境にも恵まれた施設での生活をのんびりと楽しみ、かつ安心して生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かでゆとりある環境の中で、利用者の希望を一つ一つ取り上げ、実現するようにしている。ホーム内にデイサービスとショートステイが併設されており、在宅の方とグループホームの利用者の間で交流の機会がある。敷地の下方には児童館があり、子供が近くに通う環境にあるため、ホームとの行き来も多く、外部との接点が多様な方法で用意されている。職員は長期就労者が多く、働きやすい環境にあり、コミュニケーションが十分に図られているため、申し送りや会議のほかにも、空き時間などで利用者の情報交換や統一を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが理念を念頭において利用者様を支援し、利用者様の立場になって心の通うケアに努めている	理念を共有できるよう、わかりやすいものを新しく作り、全職員が利用者の目線に立って接するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り地域の行事には参加している。開放された環境づくりに努め、地域や地域の児童館、小・中学校との交流を図っている。	小・中学校や児童館との交流は定期的で、来訪、外出と双方向の交流を保っている。地域住民の申し出からボランティアの来訪などもあり、地域の一員としてつながるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に活かされているかどうか分からないが、運営推進会議等を通して認知症の人の理解や支援の方法を共有出来るよう、努めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	できるだけ全職員が会議に関われるよう工夫はしている。また、会議結果を議事録によって職員に知らせている。必要に応じてカンファレンスでの話し合いを持っている。	毎回、会議の議題決定に時間がかかる。現状報告や利用者の様子などの報告に終わっているため、改善するよう取り組んでいる。	現在取り組んでいるが、双方向の意見交換がよりできるように工夫し、発展的な会議を開催することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行き来する機会は少ないが、町が主催する行事にはなるべく参加するようにしている。また、分からないことがあれば電話で聞くようにしている。運営推進会議にも出席している。	会議内容や利用者のサービスのことなど、気軽に相談できる関係を築いている。また、行政から緊急の利用問い合わせがあるなど、相互的な連携がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り、所在確認を行いながらケアを行っているが、やむを得ず玄関を施錠することがある。	徘徊があっても見守りで対応しようと、身体拘束をしないケアに向けて取り組み、話し合いがもたれている。身体拘束の具体的な行為を正しく理解するため、研修会の必要性を自覚している。	全職員が理解を深めるための勉強会や外部研修を利用して、介護指定基準における禁止対象行為などの理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会があれば交代で行っている。虐待については声掛けなど意識し、ケアを行い、虐待がないよう注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば参加している。また、玄関に制度についてのパンフレットを置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不安や疑問等を尋ね、十分な説明をしている。契約後も御本人や御家族の面会時など、気付いた事や不安について尋ね、声掛けするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情投函箱を設置している。また、第三者委員も設置している。面会時には声かけをし、コミュニケーションを図っている。不安や苦情が気軽に言えるような雰囲気作りをしたい。	家族と機会があるごとに会話を交わし、悩みや改善点を表せるように取り組んでいる。苦情投函箱の利用はないため、どうすれば意見がくみ取れるか、職員で話し合っている。	家族との関係は良好に保たれているが、さらに踏み込んで意見を聞き出せるような工夫を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス等で職員が意見を言う機会はある。また、毎日の申し送りなどでも職員の意見・提案を言ってもらっている。	「ベッドの使用が不適切な利用者を畳の部屋に変更したらいいのではないか」、「畳の段差の解消が必要だ」など、日常的な細かな意見は活発に提案されている。また、管理者はすぐに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準、労働時間のことはよく分からないが、研修等には積極的に行かせてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職務にあった研修、勉強会に参加する機会を与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の場で他施設との情報交換をしたり、法人内でも定期的に交流会を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努めている。また、カンファレンスや申し送り等で統一したケアが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在のところ相談される御家族は少ないが、面会等の機会を工夫して、コミュニケーションを図るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を聞いた上で、対応できるかできないかを判断し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす時間を多く持ち、会話を持つことでいろいろな話が聞けている。また、一緒に作業をすることで、同士の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様の日常を伝え、意見を聞き、共に共感できる雰囲気作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊や外出、御家族との面会に努めている。また、本人の望む場所、馴染みの場所に出向くなど支援を行っている。	墓参りや自宅の仏壇にお参りしたいなどの希望が出ることもあり、車いすの利用者でも家族と協力し、実現するよう支援している。理・美容店などには、現在も昔からの店へ通う方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべくホールで過ごして頂き、他の利用者様や職員と関わりが持てるようにしている。トラブルがあるときは職員が間に入り、孤立しないように話を傾聴している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後の継続的な関わりは持っていないが、入院時には御見舞いに行ったり、御家族へ電話を入れたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ把握に努め、希望に添えるように努めている。	傾聴し、寄り添うことしかないと感じているが、利用者が思いを表出しやすいように、夜間勤務の時間を使って、誰もいない場所で個別に話をするなど、環境づくりにも気を配っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の暮らしに必要な情報を御家族や本人様より聞き出し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	有する能力に応じて、身の回りのことやお手伝いをしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを実施し、必要に応じて御家族に相談するなどして作成している。	担当を決め、一人の利用者を深く理解するようにしているが、担当以外の利用者のケアプランを把握するまでには至っていないため、共有のものとするためにどう工夫していくかを、職員で考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り等にて情報は共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制の取り組みや通院、外出、外泊等、多機能を活かした柔軟な支援を行っている。他科受診の際には、御家族にもご協力を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別的には難しいが、全体的には民生委員、ボランティア、消防の方々と交流は出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援できている。必要に応じて他科受診もしている。	かかりつけ医が統一されているため、職員が定期受診なども含めた受診を全面的に支援し、受信簿に記録、家族に連絡をとっている。他科受診の場合は家族に依頼することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤として務め、日常の健康管理が出来ている。また、日常の健康管理には、全職員が把握するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態や入院期間についての連絡を取り、対応するようにしている。また、サマリーなどを活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早目にご家族と連絡を取り、相談を行い、職員間で共有している。終末期ケアについては、終末期をグループホームで迎えるかどうかをご家族と相談し、早い時点で決め、職員、御家族、医師との連携に努めている。	終末期をホームで迎えたいという希望があれば、職員、医師、家族とが話し合いを重ね、具体的にできることやできないことを確認しながら、受け入れる準備がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の勉強会を定期的にするよう努めている。また、マニュアル等も作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域の消防団、地区区長、民生委員の協力を得て、定期的に訓練している。消防講話も消防署にお願いしてしていただくこともある。	昼・夜間を通して避難訓練を実施し、地区区長の参加など、積極的に取り組んでいる。今後、連絡網の確認など、実際に行ってみて、改善点を探る予定である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応の仕方については気を悪くされないように注意している。	プライドを傷つけないような対応をすることはもちろんのこと、利用開始時には家族からの情報を得て、それまでの生活の中で大切にしていたものを理解し、対応に生かせるよう話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の思いや希望を出来るだけ引き出し、納得のいく生活が出来るように支援している。自己決定が難しい方は、表情などの様子をみながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に添えているかどうか分からないが、各個人に合わせ、マイペースに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御家族の協力を得て、行きつけの美・理容室に行かれてたり、化粧品や口紅など、自分で持って付けられたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の個々の能力に応じて、台拭き、箸配り、下膳、食器洗い、味見等のお手伝いをお願いしている。また、利用者様の希望に応じて好みのものを提供している。	地元の米を購入している。台所が共用空間にあるため、自然と食事に関する作業の参加につながりやすい。嫌いなメニューの場合は、代替の物を用意するなど、個人の好みに合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の摂取量のチェックを行っている。また、個人に合わせた形態・量などの工夫もしている。野菜を中心としたバランスの取れた食事を提供出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じて、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の声掛け、誘導、見守り、各個人の能力に応じた支援を行っている。また、紙パンツ、布パンツの切り替えなどは、必要に応じて職員間で話し合いを持ち、対応している。	おむつはしないという目標をもとに支援している。すべての利用者の排せつパターンを全職員が理解している。ケアするたびに職員間で情報交換がなされ、迅速なケアの変更などに結びつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排泄チェックを行い、一人ひとりの状態の確認を行っている。できるだけ薬に頼らず、水分摂取、食事の工夫、また、散歩を取り入れるなど、便秘の改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行っているが、時間帯を希望される方は現在いない。要望があればできるだけ対応していきたい。	職員が1対1で時間をかけて誘導、脱衣し、入浴するという支援方法なので、利用者はゆっくりと入浴できる。入浴を拒む方には、誘導の言葉を変更するなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様のペースに合わせた時間に居室へ戻り、休んだり、また、空調の整備、不眠時の対応も、散歩や外気浴などを取り入れ、状況に合わせて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服薬の効力や変更については職員間で申し送り等を通して把握するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物のたたみ方、食事の下膳、食器洗い、歌を歌ったり、新聞を読んだり、一人ひとりが楽しみを見出せるように支援している。また、おやつも個人で好きなものを家族が準備しており、好きな時に食べてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2～3ヶ月に1度の割合で計画を立てて外出(ドライブ)を実施している。また、家族と一緒に外出されたりもしている。地域のイベント(運動会・夏祭り等)にも参加している。	イベントや運動会などの大きな行事以外にも、散歩や買い物、外食などの外出機会を設けている。以前は行えていた畑仕事を再開できないかとの職員からの提案があり、外出には積極的である。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族からおこずかいを預かり、職員が管理している。こずかい帳をつけ、定期的に御家族に報告している。外出時には買いたい物を買ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の状況、状態、御家族の都合により出来ないこともあるが、できる限り支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や写真を飾り、ゆっくりと過ごせる空間がある。台所もホールと続いており、食事を準備する音、匂いも生活の中で楽しめていると思う。また、時間に合わせて音楽をかけたりして、くつろいで頂けるように心掛けている。	広く、開放的な空間がとられているため、腰痛の利用者に合わせて、ソファの配置を変えるなどの細かな変更ができる。畳、ソファ、テーブル、窓際など、小さなパートに分けられており、利用者の居場所が作りやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、それぞれが腰かけるようにしている。利用者様同士で腰掛け、会話も見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで頂くようにしている。居室の片付けが出来る方にはお任せし、見守るように配慮している。また、御家族が面会時に衣替えされたり、かたづけされたりもしている。	部屋ごとに個性があり、利用者の生活の違いや暮らしぶりの工夫が感じられる。寝台以外はすべて個人の物で、安全を考慮しながら、生活感がある個室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時々、居室を間違えられたり、分からなかったりする利用者様には付き添い、混乱を防ぐ為、目印となるものを置いて説明したりしている。		